東京小諸会「四季報」
春夏秋冬
発行：東京小諸会事務局　責任者：松井石根
事務局連絡先
〒333-0067 埼玉県春日部市中央 1-1-5
Tel：048-796-5391　Fax：048-796-5392
URL:http://www.komoro-kai.net
E-mail：office@komoro-kai.net

豊かな自然とふれあい！

全国の人々と絆を育む

ふるさと小諸とのふれあい東京小諸会の会員として参加を

東京小諸会では現在500名程の会員がおります。

毎年11月に総会・懇親会を東京の千代田区にある如水会館で開催しています。会員と小諸市の市長始め幹部職員、商工会議所やこもろ観光局の幹部、及び東京小諸会と連携のある諸団体の代表が参加しています。総会の他東京小諸会の主な事業は ①小諸ふるさと市民の推進 ②ふるさと納税の推進 ③小諸関係行事への参加 ④ふるさと小諸訪問⑤小諸の観光及び産業の紹介及び協力 ⑥機関紙会報の発刊 ⑦ホームページ（HP）の展開等です。今年度も継続してこれらの事業の充実・拡大を図っていきます。新たに今年度からは次の事業を検討していきます。⑧東京小諸会四季報発刊 ⑨こども小諸ふるさと市民の募集 ⑩こどもふるさとふれあい活動の推進 ⑪ふるさと文化講演会などです。順次四季報で取り上げていきます。東京小諸会を通じ、ふるさと小諸との新たなふれあいを楽しむ為に是非東京小諸会の会員に登録をお願いします。小諸に関係もしくは関心の有る人ならば本人はもとよりご家族さま、お知り合いの方も参加登録できます。お待ちしております。

詳細は東京小諸会のHPでご覧いただくか事務局までお問い合せください

ごあいさつ「四季報」の創刊にあたって

会長　松井石根

今年度より会長に就任するにあたり、東京小諸会「四季報」を年4回の予定で発刊することになりました。

東京小諸会は58年の歴史を有する会であり、毎年1回機関紙である「東京小諸会会報」を発行し44回に至っています。内容の濃い、読みごたえのある会報です。

創刊の四季報は「会員相互のふれあいとふるさと小諸との今昔に思い出」をテーマに春・夏・秋・冬の小諸の自然を映しながら会員の話題を提供する東京小諸会の会員とふるさと小諸とのふれあいを深めていくふれあい紙です。

会員はもとより会員の家族の皆様、お子様やお孫さんにも気楽にご覧いただき、寄稿していただけるような四季報に育てていただけるように工夫していきたいと思っています。

東京小諸会　ふるさと納税「ONE HUNDRED CLUB」会員募集

全国から小諸市に登録
小諸ふるさと市民
小諸こどもふるさと大使
YACK
- 登録 -

ふるさと納税の趣旨は、個人の住民税の範囲内の金額を自分が望む自治体（主にふるさと）に寄贈することにより、ふるさとの財政に寄与する制度です。自治体からはお礼に数々の自治体特産品の返礼があります。特に小諸の返礼品には魅力的なものがあります。また、税法上の優遇処置があり、確定申告で支払額相当の税額控除があり、実質的な負担無くふるさとの特産品を味わい、故郷への貢献にもなります。東京小諸会や小諸市のHPをご覧ください。

豊かな自然と情緒あふれる人とのふれあいの町小諸。小諸市では「住みたい、行きたい、帰ってきたいまち小諸」を合言葉に「小諸ふるさと市民」を募集しています。小諸市民以外は誰でも登録できます。数々の特典があり、東京小諸会又は小諸市のHPをご覧ください。東京小諸会を通じてふるさと市民に登録していただいた会員には東京小諸会からも行事等のご案内をいたします。東京小諸会の会員登録と合わせていただくと便利です。登録は東京小諸会HPからできます。また東京小諸会では小中高生を対象に「小諸こどもふるさと市民」の組織を検討中です。第2第3のふるさとして四季折々に小諸でのふるさと生活を体験する企画です。「小諸こどもふるさと市民」の中から「小諸こどもふるさと大使（YACK）」を任命し、小諸の行事に参加したり、小諸の宣伝をしていただきます。YACKの活躍は、四季報やHP等で配信します。

小諸市キャラクター（こもろん）

問い合わせ先：
東京小諸会事務局

編集後記

『四季報』創刊に当たって東京小諸会会長から制作メンバーに拝命賜った。大手新聞社で50年間、新聞づくりに携わった経験を生かし、『四季報』の制作をお手伝いする▼家で妻と論争になることがある。妻は上田小学校卒業の長野県人。私は埼玉県外で暮らしたこと無い越谷市の土着民▼妻は「懐かしい自然豊かな信濃の国で暮らしたい」という。私は「関東平野のど真ん中、渓谷や山々など、自然に乏しいが、気候が安定し、自然災害の少ない埼玉東部がいい」と主張▼今夏、線状降水帯豪雨が、熊本や信州の自然を壊し、河川が決壊。命がけで避難する住民の姿がTV映像で流れる▼晩年の住処で、合意には至らない。長野は大宮から新幹線で60分。「小諸ふるさと市民」に登録、妻と信州を散策したい。四季報の「編集に尽力する」ことで一致点を得た。（栗原一郎）

「獅子舞」「おんべ」で無病息災願う

浅間山噴火2度の体験

私は紺屋町の出身で坂の上小学校～小諸西中学校（現小諸市庁舎）で学びました。

子供のころから浅間山、懐古園、千曲川と自然と歴史に恵まれて育ちました。

子供の頃の衝撃的な思い出があります。浅間山の2回の噴火です。真昼なのに大音響と共に辺りがうす暗くなり灰が降って来ました2㎝位降ったでしょうか。

あと一回は夜中に大音響と共に噴煙が上がり火山岩がぶつかり合い火花が夜空に舞う恐ろしい光景でした。

翌日確認すると坂の上小学校の浅間山側の窓ガラスが全壊でした。自然の恐ろしさを実感しました。

私の思い出

毎年元旦の翌日から紺屋町の小学生は道祖神の祝い行事が始まります、「獅子舞」と「おんべ」で各家庭を回り御祓いをして一年間の無病息災を願います。

7月は「おみこし」の夏祭り、町内会の子供みこしを担ぐのが楽しみでした。9月1日は八幡神社の八朔の祭り、この時は大相撲巡業で横綱の照国、鏡里、朝潮連が小諸に来ました。目の前で見る横綱は圧巻でした。その時私も緞子を付けて土俵に上がりました。晴れやかな思い出でした。

3月末中学の卒業シーズンになるとクラスの皆で懐古園を散策し小諸城の石垣により登り記念写真を撮ったのが良い思い出です。

お陰様でふるさとの皆さまの知恵と努力で今でも小諸の自然と歴史に恵まれ住み良い街が維持されていると感謝しています。

渡辺静雄（紺屋町出身）

異文化交流で人生が変わった

小学生の時、目の色が青く、きれいな黄色の髪の毛、見上げるほど背の高いアメリカの学生が我が家にやってきた。

また別の年には、台湾、沖縄から訪れた。小諸市の異文化交流の取り組みである学生・留学生のホームステイを受け入れたのだ。

沖縄の学生達は初めての信州の桃狩り体験に、私は初めての沖縄のお菓子におい互いワクワクし合っていた。小諸の夏は、とても寒いと言いながら過ごしていたが、今再訪すれば沖縄と同じくらいの暑さだろうか。

1999年10月 Up with people 歓迎会にて

また帰り道が分からなくなりお困りのネパールからの留学生と出会ったことがある。小諸の町を案内しながら駅へ向かい、電車が来るまでずっとおしゃべりをしていた。

思い返すと、小諸で多くの異文化交流を経験し、人生がガラッと変わるきっかけだった。彼女たちとは今でも交流が続いている。小諸は今も国際交流が盛んと聞いている。

新海真理子（平原出身）

コラム　柿の味が懐かしい

私は「柿」が好きだ。信州といえば、「りんご」と相場は決まっているが、意外にも「りんご」は明治時代に日本に入ってきた果物で、今のように甘くはなかったらしい。

「柿食えば・・」や「柿が赤くなると医者が青くなる」ということわざは有名である。秋になると家族総出の稲刈りがあり、「おこぼれ」に皆で食べた、柿の味が懐かしい。

亡き父と母が、毎年送ってくれたほんのり甘い柿の味が、東京へ出て半世紀になる私の原点だ。小諸の実家の、屋根より高い柿の大木。秋には多くの赤い実をつけることだろう。

こんな世の中で、今年は採りに行けないのが本当に残念でならない。

小林　裕（小原出身）

中3の夏季調査で初旅

展望台から大声で「千曲川…」を歌う

私は現在76歳になりますが、生涯にわたる唯一の趣味は歴史探訪と言っても過言ではありません。その端緒は、東京の6年一貫の私立中学に入学し歴史研究部に入部したことです。部活動の一環として、毎年夏休みの名所・旧跡巡りが恒例行事でした。手元にある歴史研究部創部60周年記念号（平成21年刊）によると、「昭和34年の夏季調査研究旅行：小諸（小諸城、布引の滝）、松本（松本城）、長野（善光寺）、松代・川中島方面、◎◎先生、○○先生引率で18名が参加」と記述されています。私は中学3年生でしたが、この時始めて小諸を訪れました。

懐古園をくまなく見学し、千曲川を望む展望台から島崎藤村の『千曲川旅情の歌』を仲間と競いながら大声で朗唱したのは良き想い出です。その後も大学生になってから信州の高原を旅する都度、小諸で途中下車して懐古園から千曲川を眺めたものです。これから数回にわたり、小諸にまつわる想い出を書きつづりますのでご笑覧ください。

内藤徹雄＝元共栄大学副学長

ふるさと偉人

俳人　臼田亞浪

「大浅間　ひとり日当たる　山冬木」　この句は何処から眺めた浅間山だろうか。大浅間とあるから小諸の平原より御代田とか信濃追分又は中軽井沢あたりからの遠望ではなかろうか。小諸の市街地では大浅間というゆったりとした浅間は浮かばない。宮城道雄の春の海が流れているようなのどかな、雄大な、物怖じ気しない浅間山が日向ぼっこをしているのである。臼田亞浪　小諸生まれ、小諸の小学校、小諸義塾で学び与謝野鉄幹や高浜虚子に学んだ。その句の特徴は俳句の季語や定型を守りつつも生活的な感情の表現を目指し、こころのまことを大切にした。冒頭の句も浅間の風景をうたいつつもそれを見る人のこころの温もりや浅間山の雄大な懐に抱かれる幸せを感じる私の好きな句である。

生涯1万以上を読んでいるが、もっと評価されているべき小諸の偉人である。

こもろ散策

文化遺産と自然豊かな小諸の秋は魅力的だ。家族そろって小諸を散策したい。同市内では10月上旬から11月上旬にかけて▽小諸センゴクまつり▽信州小諸ふーどまつり▽小諸ワイナリー収穫祭▽小諸城址懐古園紅葉祭り▽東信菊花展が開催される。このほか散策スポットやウォーキングコースも満載だ。

紅葉の名所・小諸城址懐古園で10月24日から11月23日、開催される「紅葉祭り」には毎年5間万人以上の人出でにぎわい、彩づいた千本の紅葉が楽しませてくれる。